

告 辞

学長 上野 正雄

春爛漫の今日、ここ日本武道館において、学部卒業生 7,061 名、大学院修了生 1,015 名の卒業式を挙行するにあたりまして、明治大学を代表して、ご挨拶申し上げます。

卒業生、修了生の皆さん。皆さんは、入学以来、様々な努力をたゆまずに重ね、その結果として、この素晴らしい門出の日を迎えられました。その努力に、心からの敬意を表し、そして、お祝いの言葉を贈ります。

卒業、修了、誠におめでとうございます。

また、これまで、ご子女の勉学を物心両面において温かく支えてこられたご家族ならびにご関係の皆様には、学業の大きな区切りを迎え、お慶びもひとしおのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

さらに、お忙しい中、この 2024 年度卒業式にご臨席を賜りました多くの皆様に感謝申し上げます。

さて、今日卒業する皆さん。明治大学の学生と教員という関係で、皆さんにお話することができるのは今日が最後です。そこで、卒業にあたって、しっかりと記憶に刻んでいただきたいことを、2つお話しします。

1 つ目は、明治大学の精神を持ち続けてください、ということです。

皆さんが卒業するのは、明治大学です。明治大学は私学です。私学は、知識を伝授するためだけに存在しているわけではありません。創立者達がそれぞれの目的を達成するために創設し、存在しています。

明治大学は、岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操の3名の 20 代の若き法律家によって、「権利自由、独立自治」を世の中に実現すべく、明治法律学校として創設されました。

それ以来、明治大学は、今日に至るまで、時として政府の方針と対立しながらも、この「権利自由、独立自治」という建学の精神の旗をかざし続けてきたのです。

皆さんはそういう大学で学び、今日卒業を迎えたわけです。そんな皆さんに卒業後も持ち続けて欲しい、と改めてお伝えしたい、明治大学の精神とは、この建学の精神です。

「権利自由、独立自治」を世の中に実現するには、言うまでもなく、自己を尊重すること、他者を尊重すること、そのいずれもが必要です。そして、そのためには、強靱な「個」が必要です。明治大学が「個」を強くする大学を理念としているのは、その故です。

現在、深刻な対立や複合的な矛盾が、日本社会にも、地球社会にも、現実として存在しています。皆さんがこれから歩き出していく人生の次のステージにおいても、これまでの学生時代とは比べものにならないくらいに理不尽なことや、不条理なことが沢山あるはずです。また、とりわけ、今年1月以降の世界情勢は、人間が数百年をかけて積み上げてきたはずの、民主主義や法の支配がいかに脆いものか、そして、それが危機に瀕したとき、そこにいる人間はどれほどの苦しみを味わうことになるのか、過去のこととしてでなく、この21世紀の現在のこととして、改めて、明らかにしています。

このような、変えなければならない社会を変えるために必要な根源的な姿勢は、「権利自由、独立自治」、つまり、自他の尊重です。そして、自他の尊重において当然の前提となる多様性と公平性と包摂性です。

明治大学の創立者達は、144年前にこれを唱道したのです。

明治大学の構成員である我々は、「権利自由、独立自治」をものごとの評価、判断の基準におくことで、社会を「自由で平和、豊かな」ものに変えていかなければなりません。

幸いなことに、明治大学には学生、教職員のほか、60万人を超える卒業生、つまり校友がいます。そこに今日、8,076名の皆さんが加わるわけです。その1人1人が社会の中で「権利自由、独立自治」の担い手となるとき、「知の創造と人材の育成を通し、自由で平和、豊かな社会を実現する」という明治大学の使命の達成によりよく近づくはずです。

明治大学の精神を持ち続けて、「権利自由、独立自治」を世の中に実現していく存在になってください。

2つ目は、学び続けてください、ということです。

いま申し上げたように、人間は21世紀の現在に至っても、なお、自らがもたらしている対立も矛盾も解決することができないままです。むしろ、状況は悪化しているようにさえ、見えます。

一方、そんな人間が作ったAIは急激に進化しています。AI研究の第一人者で、昨年のノーベル物理学賞を受賞したカナダ、トロント大学のジェフリー・ヒントン名誉教授のイン

デビュー記事が、今年1月の読売新聞に掲載されました。そこで、ヒントン名誉教授は「人間を上回る知能を持つAIが早ければ5年、遅くとも20年で誕生するだろう。」「AIが私たちを支配する可能性についても真剣に考える必要がある。その脅威はもはやSF小説ではない。」と述べています。

また、今月18日の朝日新聞では、エイミー・ウェブという未来学者が、「人間の指示なしに、人工知能どうしが連携して意思決定をし、『生きた知能』として支配者になる時代に突入している。」「今後10年間の決断が人類文明の長期的な運命を決定すると考えている。」と述べています。

AIの進化予測については、なお様々な見解があるようですが、しかし、そう遠くない将来の社会において、現在とは全く局面を異にする変化があるとみることは一致しているようです。

このような状況の中で、私たちはどうすれば良いのか。答えを持ち合わせている人はいないでしょう。しかし、だからこそ、不断に学び続けていただきたいのです。人間が数千年にわたって営々と積み重ねてきた英知は、それだけの価値があるものです。それを学び、それを基礎に、さらに深め高めるために学ぶことにこそ、人間の未来を託せるはずです。

学び続けることによって、人間の輝かしい未来を切り開いていってください。

明治大学の精神を持ち続けること。学び続けること。この2つのことを、今日が明大生として最後の日である皆さんにお伝えして、私の告辞といたします。

皆さんの前途に幸多いことを心よりお祈り申し上げます。卒業、おめでとう。